

当ファンドの仕組みは次の通りです。

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式	
信 託 期 間	2015年4月30日（当初設定日）から無期限です。	
運 用 方 針	信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。	
主要投資対象	当ファンド	ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド受益証券
	マザーファンド	世界の環境関連企業の株式
運 用 方 法	①マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界の環境関連企業の株式に投資します。 ②実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。	
主 な 投 資 制 限	当ファンド	①株式への実質投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への実質投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への実質投資割合には制限を設けません。
	マザーファンド	①株式への投資割合には制限を設けません。ただし、未上場株式および未登録株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ②同一銘柄の株式への投資割合は、信託財産の純資産総額の10%以内とします。 ③外貨建資産への投資割合には制限を設けません。
分 配 方 針	毎決算時に、原則として以下の方針に基づき分配を行います。 ①分配対象額の範囲は、経費控除後の繰越分を含めた利子・配当等収益と売買益（評価益を含みます。）等の全額とします。 ②収益分配金額は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して委託者が決定します。ただし、分配対象額が少額の場合には、分配を行わないこともあります。 ③留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。	



PICTET

ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド (毎月決算型)為替ヘッジなし 愛称：エコディスカバリー

運用報告書(全体版)

第122期(決算日2025年6月26日) 第125期(決算日2025年9月26日)
第123期(決算日2025年7月28日) 第126期(決算日2025年10月27日)
第124期(決算日2025年8月26日) 第127期(決算日2025年11月26日)

受益者のみなさまへ

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。
さて、「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド(毎月決算型)為替ヘッジなし」は、2025年11月26日に第127期の決算を行いましたので、第122期から第127期までの運用状況をご報告申し上げます。今後とも引き続きお引き立て賜りますようお願い申し上げます。

ピクテ・ジャパン株式会社

東京都千代田区丸の内2-6-1

お問い合わせ窓口

投資信託営業部

電話番号 03-3212-1805

受付時間：委託者の営業日の午前9時から午後5時まで

ホームページ：www.pictet.co.jp

○最近30期の運用実績

決 算 期	基 (分配落)	準 価 額				株 式 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		税 分	込 配	み 金	期 騰 落 中 率			
	円			円	%	%	%	百万円
98期(2023年6月26日)	18,648			120	8.9	95.7	1.5	5,030
99期(2023年7月26日)	19,085			120	3.0	95.8	1.6	5,085
100期(2023年8月28日)	18,227			120	△ 3.9	96.0	1.6	4,815
101期(2023年9月26日)	17,628			120	△ 2.6	93.2	1.6	4,625
102期(2023年10月26日)	16,260			120	△ 7.1	96.5	1.6	4,074
103期(2023年11月27日)	18,094			120	12.0	96.2	1.6	4,397
104期(2023年12月26日)	18,787			120	4.5	95.5	1.5	4,554
105期(2024年1月26日)	18,988			120	1.7	97.3	1.6	4,524
106期(2024年2月26日)	19,925			120	5.6	96.2	1.7	4,662
107期(2024年3月26日)	20,366			120	2.8	95.5	1.1	4,726
108期(2024年4月26日)	19,829			120	△ 2.0	96.4	1.1	4,458
109期(2024年5月27日)	21,690			120	10.0	97.3	0.5	4,740
110期(2024年6月26日)	21,366			120	△ 0.9	97.9	—	4,482
111期(2024年7月26日)	19,879			120	△ 6.4	97.6	—	3,873
112期(2024年8月26日)	19,210			120	△ 2.8	97.7	—	3,734
113期(2024年9月26日)	19,405			120	1.6	97.3	—	3,643
114期(2024年10月28日)	20,288			120	5.2	97.9	—	3,674
115期(2024年11月26日)	20,552			120	1.9	98.2	—	3,586
116期(2024年12月26日)	20,710			120	1.4	96.4	—	3,387
117期(2025年1月27日)	20,852			120	1.3	97.7	—	3,242
118期(2025年2月26日)	18,621			120	△10.1	97.8	—	2,832
119期(2025年3月26日)	18,197			120	△ 1.6	98.0	—	2,699
120期(2025年4月28日)	16,625			120	△ 8.0	97.9	—	2,422
121期(2025年5月26日)	17,515			120	6.1	98.2	—	2,508
122期(2025年6月26日)	18,949			120	8.9	97.8	—	2,665
123期(2025年7月28日)	20,250			120	7.5	96.0	—	2,821
124期(2025年8月26日)	20,384			120	1.3	98.3	—	2,792
125期(2025年9月26日)	21,327			120	5.2	97.5	—	2,886
126期(2025年10月27日)	22,940			120	8.1	97.2	—	3,094
127期(2025年11月26日)	22,770			120	△ 0.2	97.8	—	3,042

(注) 基準価額の騰落率は分配金込みです。

(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」および「投資信託証券組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

○当作成期中の基準価額と市況等の推移

決 算 期	年 月 日	基 準	価 額	株 組 入 比 率	投 資 信 託 組 入 比 率
			騰 落 率		
第122期	(期 首) 2025年 5 月26日	円	%	%	%
		17,515	—	98.2	—
	5 月末	17,887	2.1	98.4	—
第123期	(期 末) 2025年 6 月26日	19,069	8.9	97.8	—
	(期 首) 2025年 6 月26日	18,949	—	97.8	—
	6 月末	19,164	1.1	97.9	—
第124期	(期 末) 2025年 7 月28日	20,370	7.5	96.0	—
	(期 首) 2025年 7 月28日	20,250	—	96.0	—
	7 月末	20,385	0.7	97.0	—
第125期	(期 末) 2025年 8 月26日	20,504	1.3	98.3	—
	(期 首) 2025年 8 月26日	20,384	—	98.3	—
	8 月末	20,535	0.7	97.4	—
第126期	(期 末) 2025年 9 月26日	21,447	5.2	97.5	—
	(期 首) 2025年 9 月26日	21,327	—	97.5	—
	9 月末	21,382	0.3	97.9	—
第127期	(期 末) 2025年10月27日	23,060	8.1	97.2	—
	(期 首) 2025年10月27日	22,940	—	97.2	—
	10 月末	23,139	0.9	96.7	—
	(期 末) 2025年11月26日	22,890	△0.2	97.8	—

(注) 期末基準価額は分配金込み、騰落率は各期首比です。

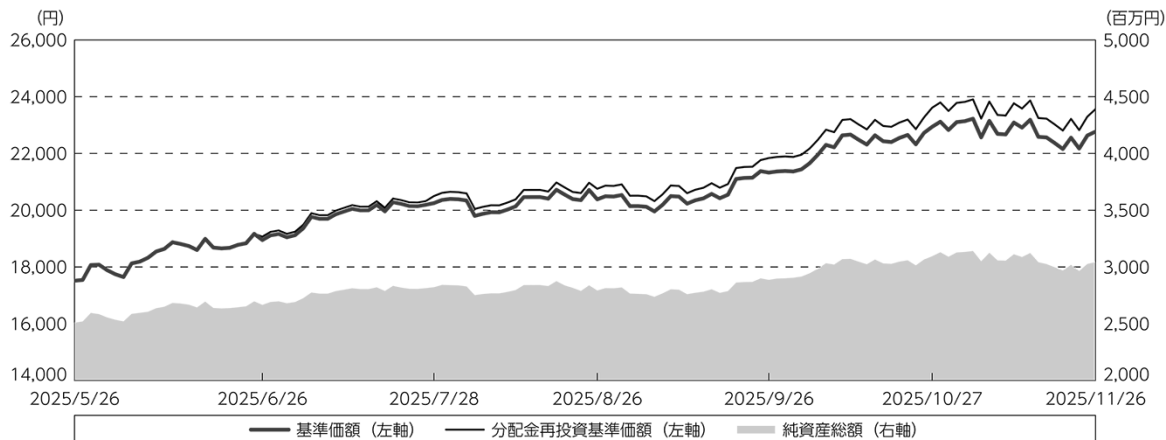
(注) 当ファンドはマザーファンドを組入れますので、「株式組入比率」および「投資信託証券組入比率」は、実質比率を記載しています。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

基準価額等の推移

当作成期の分配金再投資基準価額※は、34.5%の上昇となりました。

※「分配金再投資基準価額」は、購入時手数料等を考慮せず、税引前分配金を再投資した場合の評価額を表します。以下同じ。



第122期首：17,515円

第127期末：22,770円 (既払分配金(税込み)：720円)

騰落率：34.5% (分配金再投資ベース)

- (注) 分配金再投資基準価額は、分配金(税込み)を分配時に再投資したものとみなして計算したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。
- (注) 分配金を再投資するかどうかについてはお客様がご利用のコースにより異なります。また、ファンドの購入価額により課税条件も異なります。したがって、お客様の損益の状況を示すものではありません。
- (注) 分配金再投資基準価額は、作成期首(2025年5月26日)の値が基準価額と同一となるように指数化しております。
- (注) 上記騰落率は、小数点以下第2位を四捨五入して表示しております。
- (注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

◇主な変動要因

上昇↑・実質的に組入れているブロードコム(米国、情報技術)、トップビルド(米国、一般消費財・サービス)、ネクストパワー(米国、資本財・サービス)などの環境関連企業の株価が上昇したこと

上昇↑・円に対して米ドルなどが上昇したこと

- ・世界の株式市場は、作成期初の2025年5月末から7月半ばにかけては、米国の関税政策に起因する貿易摩擦、米国の財政悪化や雇用統計などへの懸念、ウクライナや中東における地政学的緊張の高まりなどから軟調となる場面もありましたが、概ね上昇基調で推移しました。7月後半からは、米国の関税政策を巡り、日本と欧州連合（EU）が合意に至り、中国も交渉進展への期待が高まったことに加え、米国景気や企業業績が堅調なこと、米連邦準備制度理事会（FRB）や欧州中央銀行（ECB）の利下げ観測などから上昇が続きました。9月は、月初に主要国の財政悪化懸念などから下落しましたが、その後、米国の労働市場の減速感が示されたことなどから米利下げへの期待が高まる中、上昇しました。米利下げ決定後、世界の株式市場は一時弱含んだものの、利下げによる企業業績への期待の高まりや人工知能（AI）関連の大型投資の発表が好感されたことなどからハイテク銘柄を中心に上昇基調が継続しました。10月上旬は、米政府機関閉鎖などが懸念材料となりながらも、堅調な企業業績や米利下げ観測などを背景に上昇しました。その後、トランプ米大統領が中国からの輸入品に対する関税を大幅に引き上げると警告したことを受けて、一時下落しましたが、中旬以降はAI関連の大型投資案件の発表を受けて、ハイテク銘柄を中心に上昇しました。11月には米利下げ観測の後退や米国景気の減速懸念などを受けて下落する場面もありましたが、作成期末にかけてはFRB高官の発言を受けて米利下げへの期待が高まったことなどから世界の株式市場は上昇に転じました。
- ・為替市場は、作成期初の2025年5月末から6月末にかけてはもみ合う展開となりました。7月は、米国の関税措置に関する日米間の通商交渉を巡る不透明感や、これに伴い日本銀行の追加利上げ観測が後退したことなどを背景に、上旬より円安・米ドル高となりました。その後も、参議院選挙で与党自民党が敗北したことなどを背景に円安・米ドル高基調で推移しました。8月から9月にかけては、米利下げ観測やFRBの独立性への懸念、米連邦議会で政府予算審議が難航し米政府機関が一部閉鎖される可能性が高まったことなどが円高・米ドル安要因となった一方、積極財政派の高市氏が自民党総裁選に出馬を表明したことを受けた円安・米ドル高の動きもあり、総じて横ばいで推移しました。10月は、月初に行われた自民党総裁選で高市氏が勝利したことを受けて、日本銀行による利上げ実施が遅れるとの見方が強まったことから円安・米ドル高となりました。その後、公明党が自民党との連立政権からの離脱を表明したことや、ベッセント米財務長官が日本銀行の金融政策について言及したことなどを背景に円高・米ドル安となる場面もあったものの、月末の金融政策決定会合で日本銀行が金融政策の現状維持を決定し、その後の会見でも早期の追加利上げを示唆しなかったことなどから円安・米ドル高が進行しました。為替介入に対する警戒感はあったものの、作成期末にかけては、米政府機関の閉鎖が解除されたこと、積極的な財政政策による日本の財政悪化への警戒感などから円安・米ドル高基調となりました。

組入状況

当ファンドが主要投資対象とするピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド受益証券への投資比率を高位に維持してまいりました。実質組入外貨建資産については、為替ヘッジを行いませんでした。

<ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド>

主に世界の環境関連企業の株式に投資を行ってまいりました。

環境関連企業の株式の組入比率は原則として最終ポートフォリオの3分の2以上（時価総額ベース）を目標としておりますが、期末における組入比率は、98.3%となりました。

当社および運用指図の権限の委託先におけるESGに関わる活動の詳細につきましては以下のリンク先をご覧ください。

<https://www.pictet.co.jp/featured/esg-portal.html>

◇国・地域別組入比率

【前作成期末】

国・地域名	組入比率
米国	68.0%
オランダ	8.3%
ドイツ	6.8%
フランス	5.3%
スペイン	4.4%
ブラジル	2.4%
スイス	2.3%
デンマーク	1.1%



【当作成期末】

国・地域名	組入比率
米国	70.7%
オランダ	7.0%
ドイツ	5.9%
フランス	4.9%
スペイン	4.7%
デンマーク	1.7%
ブラジル	1.7%
英国	1.3%

（注）組入比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。

◇業種別組入比率

【前作成期末】

業種名	組入比率
半導体・半導体製造装置	37.8%
資本財	22.3%
公益事業	17.2%
ソフトウェア・サービス	9.0%
素材	6.0%
耐久消費財・アパレル	3.7%
自動車・自動車部品	2.6%
一般消費財・サービス流通・小売り	0.1%



【当作成期末】

業種名	組入比率
半導体・半導体製造装置	37.6%
資本財	22.4%
公益事業	19.9%
ソフトウェア・サービス	7.1%
素材	5.3%
耐久消費財・アパレル	3.4%
自動車・自動車部品	2.5%
一般消費財・サービス流通・小売り	0.1%

（注）組入比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。また、業種はGICS（世界産業分類基準）の産業グループに基づき表示しています。

◇組入上位10銘柄

【前作成期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
ブロードコム	米国	半導体・半導体製造装置	6.9%
トレイン・テクノロジーズ	米国	建設関連製品	4.6%
イベルドロラ	スペイン	電力	4.4%
リンデ	米国	化学	4.3%
サンゴバン	フランス	建設関連製品	4.3%
アブライドマテリアルズ	米国	半導体・半導体製造装置	4.0%
NXPセミコンダクターズ	オランダ	半導体・半導体製造装置	3.9%
イートン	米国	電気設備	3.8%
マーベル・テクノロジー	米国	半導体・半導体製造装置	3.8%
トップビルド	米国	家庭用耐久財	3.7%

【当作成期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
ブロードコム	米国	半導体・半導体製造装置	6.2%
マーベル・テクノロジー	米国	半導体・半導体製造装置	4.4%
アブライドマテリアルズ	米国	半導体・半導体製造装置	4.3%
ネクストパワー	米国	電気設備	4.2%
リンデ	米国	化学	4.1%
トレイン・テクノロジーズ	米国	建設関連製品	4.1%
サンゴバン	フランス	建設関連製品	4.0%
イベルドロラ	スペイン	電力	3.8%
ファーストソーラー	米国	半導体・半導体製造装置	3.8%
NXPセミコンダクターズ	オランダ	半導体・半導体製造装置	3.6%



(注) 組入比率は、マザーファンドの純資産総額に対する評価額の割合です。また、業種はGICS（世界産業分類基準）の産業に基づき表示しています。

当作成期末の組入上位銘柄は、

- ブロードコム : 無線通信および通信インフラ向けの半導体や、エンタープライズ向けのインフラストラクチャーソフトウェアソリューションなどを設計、開発、提供する米国の企業。同社が大規模データセンター向けに提供する半導体は、データ処理の高速化と電力消費の削減に寄与するものであり、今後、長期的に需要が拡大することが見込まれる。自社の事業活動においては、2030年までに2021年比で温室効果ガス排出量（スコープ1およびスコープ2）を38%削減するとの中期目標を設定。
- マーベル・テクノロジー : セキュリティ、ネットワーキングプラットフォーム、ストレージソリューションなどに関する半導体と関連技術を提供する米国の企業。同社のストレージソリューションは、クラウドサービスの普及に伴ってニーズが拡大するデータセンターにおける電力消費の削減に寄与するものであり、今後、長期的に需要が拡大することが見込まれる。ソリューションの最適化のため、クラウドサービスを提供する顧客と直接協力して特定のエネルギー効率改善ニーズを満たすためのカスタムも行う。
- アブライドマテリアルズ : 半導体、太陽電池、フラットパネルの製造装置およびこれらに関連するサービスを提供する米国の企業。半導体は、e-モビリティへの移行や生産効率の向上を実現するための基盤技術であり、同社は半導体製造装置の提供を通じて社会のエネルギー転換に寄与。同社製品は、よりエネルギー効率の高い半導体の製造を支援するものであり、今後、長期的に需要が拡大することが見込まれる。
- ネクストパワー : 太陽光追尾装置や発電量管理システム、センサー機能などを統合したソリューションを提供する米国の企業。電化の進展やAIの急速な普及を背景に、電力需要の拡大が見

込まれるなか、クリーンかつコスト効率に優れる太陽光発電の導入が進む公算が大きいと考えられる。こうしたなか、顧客の太陽光発電施設における発電効率の向上に寄与する同社ソリューションに対する需要は、今後、長期的に拡大すると見込まれる。自社の事業活動においては、ゼロ・エミッション輸送を採用するなどし、サプライチェーンの脱炭素化にも取り組んでいる。

- リンデ : 産業用ガスの世界的大手企業で、クリーン・エネルギー用途で注目が高まる水素分野におけるリーディングカンパニー。プラントエンジニアリング事業にも従事。同社の製品およびサービスは、顧客の温室効果ガス排出量削減にも寄与するものであり、脱炭素化の長期的トレンドに支えられ、今後、需要が拡大することが見込まれる。また、自社の事業活動においては、2035年までに2021年比で温室効果ガス排出量（スコープ1およびスコープ2）を35%削減するとの中期目標を設定。

などとなりました。

収益分配金

当作成期中の収益分配は、基準価額の水準および市況動向等を勘案して決定しました。各決算期の分配金の計算過程につきましては、13ページをご覧ください。

なお、収益分配にあてなかった留保益の運用については、特に制限を設けず、委託者の判断に基づき、元本部分と同一の運用を行います。

◇分配金および分配原資の内訳

（単位：円、1万口当たり、税込み）

項 目	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期	第127期
	2025年5月27日～ 2025年6月26日	2025年6月27日～ 2025年7月28日	2025年7月29日～ 2025年8月26日	2025年8月27日～ 2025年9月26日	2025年9月27日～ 2025年10月27日	2025年10月28日～ 2025年11月26日
当期分配金 (対基準価額比率)	120 0.629%	120 0.589%	120 0.585%	120 0.560%	120 0.520%	120 0.524%
当期の収益	37	96	120	120	120	—
当期の収益以外	82	23	—	—	—	120
翌期繰越分配対象額	10,979	10,955	11,090	12,033	13,646	13,526

（注）対基準価額比率は当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

（注）「当期の収益」および「当期の収益以外」は小数点以下を切捨てて表示しているため合計が当期分配金と一致しない場合があります。

○今後の運用方針

（１）投資環境

当ファンドの投資対象である環境関連株式は、中長期的には欧州や日本、中国など多くの国・地域が脱炭素社会を目指す目標を掲げるなど、今後も環境問題への積極的な取り組みが行われると見られる中、引き続き魅力的な投資対象と考えます。ロシアのウクライナ侵攻を受けて、特に欧州でエネルギー安全保障への関心が高まっており、今後のエネルギー転換が加速することが見込まれています。分野別で見ると自動車の電化が急速に進む中でEV（電気自動車）関連が注目されます。またエコ・ロボティクス関連では、製造業においてコスト削減と競争力維持のためエネルギー効率化を進める動きが需要拡大につながると見られます。再生可能エネルギー関連については、太陽光や風力などによる発電コストの急速な低減が普及拡大をけん引すると考えます。

（２）投資方針

ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド受益証券への投資を通じて、主として世界の環境関連企業の株式に投資します。実質組入外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

<マザーファンド>

世界の環境関連企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。特定の銘柄、国や通貨に集中せず分散投資を基本としリスク分散を図ります。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2025年 5 月27日～2025年11月26日)

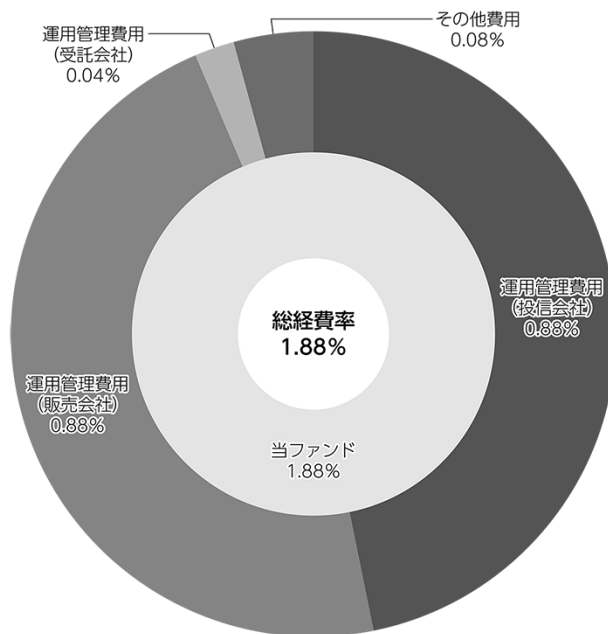
項 目	第122期～第127期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 信 託 報 酬	円 186	% 0.909	(a) 信託報酬＝作成期間の平均基準価額×信託報酬率
(投 信 会 社)	(91)	(0.444)	・ ファンドの運用とそれに伴う調査、受託会社への指図、各種情報提供等、基準価額の算出等の対価
(販 売 会 社)	(91)	(0.444)	・ 購入後の情報提供、交付運用報告書等各种書類の送付、口座内でのファンドの管理および事務手続等の対価
(受 託 会 社)	(5)	(0.022)	・ ファンドの財産の保管・管理、投信会社からの指図の実行等の対価
(b) 売 買 委 託 手 数 料	4	0.019	(b) 売買委託手数料＝作成期間の売買委託手数料÷作成期間の平均受益権口数 ・ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料。
(株 式)	(4)	(0.019)	株式の売買委託手数料には、運用指図に関する権限を委託した投資顧問会社が、売買仲介人から売買委託手数料の一部返戻を受けて、調査サービス提供の対価として証券会社等の調査機関に支払う調査費用が含まれることがあります。
(c) 有 価 証 券 取 引 税	3	0.014	(c) 有価証券取引税＝作成期間の有価証券取引税÷作成期間の平均受益権口数 ・ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(株 式)	(3)	(0.014)	
(d) そ の 他 費 用	8	0.041	(d) その他費用＝作成期間のその他費用÷作成期間の平均受益権口数
(保 管 費 用)	(3)	(0.013)	・ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用
(監 査 費 用)	(1)	(0.007)	・ 監査費用は、監査法人等に支払うファンドの監査に係る費用
(そ の 他)	(4)	(0.021)	・ その他は、目論見書、運用報告書等法定の開示書類の作成等に要する費用 その他信託事務の処理に要する諸費用
合 計	201	0.983	
作成期間の平均基準価額は、20,415円です。			

- (注) 作成期間の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加・解約により受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。
- (注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。
- (注) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当ファンドが組入れているマザーファンドが支払った金額のうち、当ファンドに対応するものを含みます。
- (注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を作成期間の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

(参考情報)

○総経費率

当作成期間の運用・管理にかかった費用の総額（原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を除く。）を作成期間の平均受益権口数に作成期間の平均基準価額（1口当たり）を乗じた数で除した総経費率（年率）は1.88%です。



(注) 上記の費用は、「1万口当たりの費用明細」において用いた簡便法により算出したものです。

(注) 各費用は、原則として、募集手数料、売買委託手数料および有価証券取引税を含みません。

(注) 各比率は、年率換算した値です。

(注) 上記の前提条件で算出したものです。このため、これらの値はあくまでも参考であり、実際に発生した費用の比率とは異なります。

○売買及び取引の状況

(2025年 5 月27日～2025年11月26日)

親投資信託受益証券の設定、解約状況

銘 柄	第122期～第127期			
	設 定		解 約	
	口 数	金 額	口 数	金 額
ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド	千口 5,944	千円 43,120	千口 51,271	千円 364,610

(注) 単位未満は切り捨てています。

○株式売買比率

(2025年 5 月27日～2025年11月26日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	第122期～第127期
	ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド
(a) 当作成期中の株式売買金額	15,368,764千円
(b) 当作成期中の平均組入株式時価総額	32,991,753千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.46

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。

(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2025年 5 月27日～2025年11月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○自社による当ファンドの設定・解約状況

(2025年 5 月27日～2025年11月26日)

該当事項はございません。

○特定資産の価格等の調査

(2025年 5 月27日～2025年11月26日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年11月26日現在)

親投資信託残高

銘	柄	第121期末	第127期末	
		口数	口数	評価額
		千口	千口	千円
ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド		419,621	374,294	3,028,832

(注) 単位未満は切り捨てています。

○投資信託財産の構成

(2025年11月26日現在)

項	目	第127期末	
		評価額	比率
		千円	%
ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド		3,028,832	98.8
コール・ローン等、その他		36,533	1.2
投資信託財産総額		3,065,365	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンドにおいて、当作成期末における外貨建純資産（34,228,136千円）の投資信託財産総額（34,403,982千円）に対する比率は99.5%です。

(注) ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンドにおける外貨建資産は、当作成期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当作成期末における邦貨換算レートは、1米ドル=156.38円、1ブラジルレアル=29.0081円、1英ポンド=205.83円、1ユーロ=180.79円、1スイスフラン=193.54円、1デンマーククローネ=24.21円、100韓国ウォン=10.71円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況

項	目	第122期末	第123期末	第124期末	第125期末	第126期末	第127期末
		2025年6月26日現在	2025年7月28日現在	2025年8月26日現在	2025年9月26日現在	2025年10月27日現在	2025年11月26日現在
		円	円	円	円	円	円
(A) 資産		2,690,119,904	2,842,808,392	2,813,298,885	2,913,549,917	3,118,241,966	3,065,365,783
	コール・ローン等	33,923,966	34,798,572	34,520,919	34,634,713	35,465,974	34,903,357
	ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド(譲渡)	2,653,185,613	2,807,829,487	2,778,777,635	2,872,504,872	3,079,805,652	3,028,832,092
	未収入金	3,010,000	180,000	—	6,410,000	2,970,000	1,630,000
	未収利息	325	333	331	332	340	334
(B) 負債		24,152,408	21,500,323	20,599,407	27,172,229	23,883,545	22,480,898
	未払収益分配金	16,883,136	16,718,909	16,440,914	16,240,887	16,186,398	16,036,564
	未払解約金	3,139,040	257,000	4,683	6,504,505	2,956,816	1,765,839
	未払信託報酬	4,008,046	4,390,567	4,030,925	4,295,875	4,600,095	4,540,089
	その他未払費用	122,186	133,847	122,885	130,962	140,236	138,406
(C) 純資産総額(A－B)		2,665,967,496	2,821,308,069	2,792,699,478	2,886,377,688	3,094,358,421	3,042,884,885
	元本	1,406,928,054	1,393,242,497	1,370,076,238	1,353,407,287	1,348,866,520	1,336,380,368
	次期繰越損益金	1,259,039,442	1,428,065,572	1,422,623,240	1,532,970,401	1,745,491,901	1,706,504,517
(D) 受益権総口数		1,406,928,054口	1,393,242,497口	1,370,076,238口	1,353,407,287口	1,348,866,520口	1,336,380,368口
	1万口当たり基準価額(C／D)	18,949円	20,250円	20,384円	21,327円	22,940円	22,770円

<注記事項（当運用報告書作成時点では、監査未了です。）>

(貸借対照表関係)

(注) 当ファンドの第122期首元本額は1,432,282,000円、第122～127期中追加設定元本額は38,540,258円、第122～127期中一部解約元本額は134,441,890円です。

(注) 1口当たり純資産額は、第122期1.8949円、第123期2.0250円、第124期2.0384円、第125期2.1327円、第126期2.2940円、第127期2.2770円です。

○損益の状況

項 目	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期	第127期
	2025年5月27日～ 2025年6月26日	2025年6月27日～ 2025年7月28日	2025年7月29日～ 2025年8月26日	2025年8月27日～ 2025年9月26日	2025年9月27日～ 2025年10月27日	2025年10月28日～ 2025年11月26日
	円	円	円	円	円	円
(A) 配当等収益	3,799	4,579	4,324	4,181	4,981	4,337
受取利息	3,799	4,579	4,324	4,181	4,981	4,337
(B) 有価証券売買損益	221,970,946	202,414,815	38,968,080	148,316,774	238,519,589	△ 2,112,465
売買益	225,438,882	203,853,851	39,639,196	148,927,332	239,756,561	580,496
売買損	△ 3,467,936	△ 1,439,036	△ 671,116	△ 610,558	△ 1,236,972	△ 2,692,961
(C) 信託報酬等	△ 4,130,232	△ 4,524,414	△ 4,153,810	△ 4,426,837	△ 4,740,331	△ 4,678,495
(D) 当期損益金(A+B+C)	217,844,513	197,894,980	34,818,594	143,894,118	233,784,239	△ 6,786,623
(E) 前期繰越損益金	242,483,521	437,362,489	605,258,485	614,596,506	735,453,658	940,421,319
(F) 追加信託差損益金	815,594,544	809,527,012	798,987,075	790,720,664	792,440,402	788,906,385
(配当等相当額)	(914,239,664)	(907,882,093)	(895,782,623)	(886,339,322)	(887,672,871)	(883,265,821)
(売買損益相当額)	(△ 98,645,120)	(△ 98,355,081)	(△ 96,795,548)	(△ 95,618,658)	(△ 95,232,469)	(△ 94,359,436)
(G) 計(D+E+F)	1,275,922,578	1,444,784,481	1,439,064,154	1,549,211,288	1,761,678,299	1,722,541,081
(H) 収益分配金	△ 16,883,136	△ 16,718,909	△ 16,440,914	△ 16,240,887	△ 16,186,398	△ 16,036,564
次期繰越損益金(G+H)	1,259,039,442	1,428,065,572	1,422,623,240	1,532,970,401	1,745,491,901	1,706,504,517
追加信託差損益金	815,594,544	809,527,012	798,987,075	790,720,664	792,440,402	788,906,385
(配当等相当額)	(914,260,162)	(907,883,586)	(895,785,678)	(886,340,718)	(887,674,937)	(883,267,962)
(売買損益相当額)	(△ 98,665,618)	(△ 98,356,574)	(△ 96,798,603)	(△ 95,620,054)	(△ 95,234,535)	(△ 94,361,577)
分配準備積立金	630,506,296	618,538,560	623,636,165	742,249,737	953,051,499	924,384,755
繰越損益金	△ 187,061,398	—	—	—	—	△ 6,786,623

- (注) 損益の状況の中で(B)有価証券売買損益は各期末の評価換えによるものを含みます。
- (注) 損益の状況の中で(C)信託報酬等には信託報酬に対する消費税等相当額を含めて表示しています。
- (注) 損益の状況の中で(F)追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
- (注) 第122期計算期間末における費用控除後の配当等収益(5,272,228円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(914,260,162円)および分配準備積立金(642,117,204円)より分配対象収益は1,561,649,594円(10,000口当たり11,099円)であり、うち16,883,136円(10,000口当たり120円)を分配金額としております。
- (注) 第123期計算期間末における費用控除後の配当等収益(2,997,625円)、費用控除後の有価証券等損益額(10,401,740円)、信託約款に規定する収益調整金(907,883,586円)および分配準備積立金(621,858,104円)より分配対象収益は1,543,141,055円(10,000口当たり11,075円)であり、うち16,718,909円(10,000口当たり120円)を分配金額としております。
- (注) 第124期計算期間末における費用控除後の配当等収益(1,036,836円)、費用控除後の有価証券等損益額(33,781,758円)、信託約款に規定する収益調整金(895,785,678円)および分配準備積立金(605,258,485円)より分配対象収益は1,535,862,757円(10,000口当たり11,210円)であり、うち16,440,914円(10,000口当たり120円)を分配金額としております。
- (注) 第125期計算期間末における費用控除後の配当等収益(2,848,913円)、費用控除後の有価証券等損益額(141,045,205円)、信託約款に規定する収益調整金(886,340,718円)および分配準備積立金(614,596,506円)より分配対象収益は1,644,831,342円(10,000口当たり12,153円)であり、うち16,240,887円(10,000口当たり120円)を分配金額としております。
- (注) 第126期計算期間末における費用控除後の配当等収益(548,478円)、費用控除後の有価証券等損益額(233,235,761円)、信託約款に規定する収益調整金(887,674,937円)および分配準備積立金(735,453,658円)より分配対象収益は1,856,912,834円(10,000口当たり13,766円)であり、うち16,186,398円(10,000口当たり120円)を分配金額としております。
- (注) 第127期計算期間末における費用控除後の配当等収益(0円)、費用控除後の有価証券等損益額(0円)、信託約款に規定する収益調整金(883,267,962円)および分配準備積立金(940,421,319円)より分配対象収益は1,823,689,281円(10,000口当たり13,646円)であり、うち16,036,564円(10,000口当たり120円)を分配金額としております。
- (注) 主要投資対象であるマザーファンドにおいて、信託財産の運用の指図に係る権限の全部又は一部を委託するために要する費用当該費用は、ファンドに係る信託報酬のうち委託者が受ける報酬から支弁しております。

○分配金のお知らせ

	第122期	第123期	第124期	第125期	第126期	第127期
1 万口当たり分配金（税込み）	120円	120円	120円	120円	120円	120円

- ◇分配金を再投資する場合
お手取り分配金は、各決算日現在の基準価額に基づいて、みなさまの口座に繰り入れて再投資いたしました。
- ◇分配金をお支払いする場合
分配金のお支払いは、各決算日から起算して5営業日までに開始いたします。
- ◇分配金は普通分配金に課税され、個人の受益者の場合、源泉徴収の税率は20.315%（所得税15%、復興特別所得税0.315%および地方税5%）となります。（原則として、確定申告は不要です。）
法人の受益者の場合、源泉徴収の税率は15.315%（所得税15%および復興特別所得税0.315%）となります。
（注）当作成期末現在で適用される内容であり、税制が改正された場合等は変更される場合があります。外貨建資産への投資により外国税額控除の適用となった場合には、分配時の税金が上記と異なる場合があります。
- ◇元本払戻金（特別分配金）が発生した場合は、分配金発生時に個々の受益者の個別元本から当該元本払戻金（特別分配金）を控除した額が、その後の個々の受益者の個別元本となります。

○お知らせ

該当事項はございません。

ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド

運用状況のご報告

第16期（決算日：2025年11月26日）
（計算期間：2024年11月27日～2025年11月26日）

受益者のみなさまへ

「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・マザーファンド」は、「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド（毎月決算型）為替ヘッジなし」、「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド（年2回決算型）為替ヘッジなし」、「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド（適格機関投資家専用）」、「iTrustエコイノベーション」、「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド（毎月決算型）為替ヘッジあり」および「ピクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド（年2回決算型）為替ヘッジあり」が投資対象とするマザーファンドで、信託財産の実質的な運用を行っております。

以下、法令・諸規則に基づき、当マザーファンドの第16期の運用状況をご報告申し上げます。

●当マザーファンドの仕組みは次の通りです。

主 な 運 用 方 針	信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。
主 要 投 資 対 象	世界の環境関連企業の株式
主 な 投 資 制 限	株式への投資割合…制限を設けません。 外貨建資産への投資割合…制限を設けません。

○最近 5 期の運用実績

決 算 期	基 準	価 額	株 組 入 比 式 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率	純 資 産 総 額
		期 騰 落 中 率			
	円	%	%	%	百万円
12期(2021年11月26日)	47,674	37.5	95.3	4.5	90,004
13期(2022年11月28日)	46,325	△ 2.8	97.3	1.5	69,563
14期(2023年11月27日)	53,510	15.5	96.6	1.6	55,568
15期(2024年11月26日)	66,591	24.4	98.7	—	40,807
16期(2025年11月26日)	80,921	21.5	98.3	—	34,373

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

○当期中の基準価額と市況等の推移

年 月 日	基 準	価 額	株 組 入 比 式 率	投 資 信 託 証 組 入 比 率
		騰 落 率		
(期 首)	円	%	%	%
2024年11月26日	66,591	—	98.7	—
11月末	64,138	△ 3.7	99.0	—
12月末	67,305	1.1	96.9	—
2025年 1 月末	65,871	△ 1.1	97.9	—
2 月末	60,255	△ 9.5	98.4	—
3 月末	57,260	△14.0	98.5	—
4 月末	55,711	△16.3	98.5	—
5 月末	60,766	△ 8.7	98.8	—
6 月末	65,650	△ 1.4	98.6	—
7 月末	70,385	5.7	97.5	—
8 月末	71,432	7.3	97.9	—
9 月末	74,941	12.5	98.4	—
10月末	81,693	22.7	97.2	—
(期 末)				
2025年11月26日	80,921	21.5	98.3	—

(注) 騰落率は期首比です。

(注) 当ファンドの運用方針に対し、適切に比較できる指数がないためベンチマークおよび参考指数は設定していません。

基準価額等の推移

当期の基準価額は、21.5%の上昇となりました。

**◇主な変動要因****当期前半**

下落↓・組入れているオン・セミコンダクター（米国、情報技術）やマーベル・テクノロジー（米国、情報技術）、トップビルド（米国、一般消費財・サービス）などの環境関連企業の株価が下落したこと

下落↓・円に対して米ドルなどが下落したこと

当期後半

上昇↑・組入れているブロードコム（米国、情報技術）、トップビルド（米国、一般消費財・サービス）、ネクストパワー（米国、資本財・サービス）などの環境関連企業の株価が上昇したこと

上昇↑・円に対して米ドルなどが上昇したこと

- ・世界の株式市場は、期初の2024年11月下旬から12月初旬にかけては低調な景気指標を受けて米国の利下げ観測が高まったことや中国の景気刺激策への期待などから上昇基調となりました。2025年1月上旬にかけては、米連邦準備制度理事会（FRB）の追加利下げへの慎重な姿勢や、トランプ米政権の政策による欧米関係の悪化や防衛費負担の増加などが欧州経済を圧迫するとの懸念などを背景に軟調に推移しました。FRBの利下げ回数期待の後退、トランプ米政権の政策や米国のインフレへの警戒感、中国の景気や欧州での政治的混乱への懸念なども重荷となりました。1月後半以降は、米国長期金利の低下や欧州中央銀行（ECB）の利下げ、ロシアとウクライナの停戦協議への期待、欧米企業の業績や中国の経済指標が堅調となったことなどから上昇しました。2月中旬以降は、米国の景気指標の悪化による景気減速への懸念、トランプ米政権による関税強化や対中国の半導体輸出規制の強化などを受けて下落傾向で推移しました。その後も、トランプ米政権の関税政策の内容が事前の市場想定以上に厳しい内容となったことで、世界的に貿易摩擦が拡大し景気後退やインフレを招くとの警戒感が高まり、4月初旬にかけて下落が続きました。5月にかけては、トランプ米政権が関税政策について一部態度を軟化させ、英国との間で貿易協定締結に合意したこと、対中国での関税引き下げを発表したこと、人工知能（AI）向け半導体の輸出規制を見直す方針を明らかにしたことなどを受けて貿易摩擦激化への警戒感が和らいだことから、世界の株式市場は上昇基調となりました。7月半ばにかけては、米国の関税政策に起因する貿易摩擦、米国の財政悪化や雇用統計などへの懸念、ウクライナや中東における地政学的緊張の高まりなどから軟調となる場面もありましたが、概ね上昇基調で推移しました。7月後半からは、米国の関税政策を巡り、日本と欧州連合（EU）が合意に至り、中国も交渉進展への期待が高まったことに加え、米国景気や企業業績が堅調なこと、FRBやECBの利下げ観測などから上昇が続きました。9月は、月初に主要国の財政悪化懸念などから下落しましたが、その後、米国の労働市場の減速感が示されたことなどから米利下げへの期待が高まる中、上昇しました。米利下げ決定後、世界の株式市場は一時弱含んだものの、利下げによる企業業績への期待の高まりやAI関連の大型投資の発表が好感されたことなどからハイテク銘柄を中心に上昇基調が継続しました。10月上旬は、米政府機関閉鎖などが懸念材料となりながらも、堅調な企業業績や米利下げ観測などを背景に上昇しました。その後、トランプ米大統領が中国からの輸入品に対する関税を大幅に引き上げると警告したことを受けて、一時下落しましたが、中旬以降はAI関連の大型投資案件の発表を受けて、ハイテク銘柄を中心に上昇しました。11月には米利下げ観測の後退や米国景気の減速懸念などを受けて下落する場面もありましたが、期末にかけてはFRB高官の発言を受けて米利下げへの期待が高まったことなどから世界の株式市場は上昇に転じました。
- ・為替市場は、期初の2024年11月下旬以降は、米国の追加利下げペースの後退観測や、日本銀行の追加利上げ見送り観測などを背景に2025年1月初旬にかけて円安・米ドル高で推移しました。その後は、日本銀行が追加利上げを実施したこと、景気減速懸念の高まりを受けて米国株式市場が下落したこと、トランプ米政権による関税政策の内容が事前の市場想定以上に厳しいものとなったことで、米国の景気後退やインフレに対する懸念が高まったことなどを背景に、4月前半にかけて円高・米ドル安の動きが継続しました。4月後半以降は、トランプ米政権が関税政策について一部態度を軟化させ、英国との間で貿易協定締結に合意したこと、対中国の関税引き下げを発表したことなどから貿易摩擦激化への警戒感が和らいだこと、米連邦公開市場委員会（FOMC）や景気指標を通じて米国景気の底堅さが確認されたことに加え、トランプ米大統領がパウエルFRB議長解任発言を撤回したことなども要因となり、5月初旬まで円安・米ドル高で推移しました。その後は、トランプ米政権の関税政策の不透明感や米国の財政悪化への警戒感などから円高・米ドル安で推移しました。5月末から6月末にかけてはもみ合う展開となりました。7月は、米国の関税措置に関する日米間の通商交渉を巡る不透明感や、これに伴い日本銀行の追加利上げ観測が後退したことなどを背景に、上旬より円安・米ドル高となりました。その後も、参議院選挙で与党自民党が敗北したことなどを背景に円安・米ドル高基調で推移しました。8月から9月にかけては、米利下げ観測やFRBの独立性への懸念、米連邦議会で政府予算審議が難航し米政府機関が一部閉鎖される可能性が高まったことなどが円高・米ドル安要因

となった一方、積極財政派の高市氏が自民党総裁選に出馬を表明したことを受けた円安・米ドル高の動きもあり、総じて横ばいで推移しました。10月は、月初に行われた自民党総裁選で高市氏が勝利したことを受けて、日本銀行による利上げ実施が遅れるとの見方が強まったことから円安・米ドル高となりました。その後、公明党が自民党との連立政権からの離脱を表明したことや、ベッセント米財務長官が日本銀行の金融政策について言及したことなどを背景に円高・米ドル安となる場面もあったものの、月末の金融政策決定会合で日本銀行が金融政策の現状維持を決定し、その後の会見でも早期の追加利上げを示唆しなかったことなどから円安・米ドル高が進行しました。為替介入に対する警戒感があったものの、期末にかけては、米政府機関の閉鎖が解除されたこと、積極的な財政政策による日本の財政悪化への警戒感などから円安・米ドル高基調となりました。

組入状況

主に世界の環境関連企業の株式に投資を行ってまいりました。

環境関連企業の株式の組入比率は原則として最終ポートフォリオの3分の2以上（時価総額ベース）を目標としておりますが、期末における組入比率は、98.3%となりました。

当社および運用指図の権限の委託先におけるESGに関わる活動の詳細につきましては以下のリンク先をご覧ください。

<https://www.pictet.co.jp/featured/esg-portal.html>

◇国・地域別組入比率

【期首】

国・地域名	組入比率
米国	72.9%
オランダ	7.9%
ドイツ	5.0%
スペイン	4.4%
フランス	2.7%
ブラジル	2.3%
スイス	2.3%
デンマーク	1.1%



【期末】

国・地域名	組入比率
米国	70.7%
オランダ	7.0%
ドイツ	5.9%
フランス	4.9%
スペイン	4.7%
デンマーク	1.7%
ブラジル	1.7%
英国	1.3%
スイス	0.4%

（注）組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。

◇業種別組入比率

【期首】

業種名	組入比率
半導体・半導体製造装置	36.0%
公益事業	17.7%
資本財	17.2%
ソフトウェア・サービス	10.9%
素材	8.6%
耐久消費財・アパレル	4.6%
自動車・自動車部品	3.6%
一般消費財・サービス流通・小売り	0.2%



【期末】

業種名	組入比率
半導体・半導体製造装置	37.6%
資本財	22.4%
公益事業	19.9%
ソフトウェア・サービス	7.1%
素材	5.3%
耐久消費財・アパレル	3.4%
自動車・自動車部品	2.5%
一般消費財・サービス流通・小売り	0.1%

（注）組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。また、業種はGICS（世界産業分類基準）の産業グループに基づき表示しています。

◇組入上位10銘柄

【期首】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
マーベル・テクノロジー	米国	半導体・半導体製造装置	6.4%
トレイン・テクノロジーズ	米国	建設関連製品	6.3%
ブロードコム	米国	半導体・半導体製造装置	5.9%
オン・セミコンダクター	米国	半導体・半導体製造装置	4.8%
NXPセミコンダクターズ	オランダ	半導体・半導体製造装置	4.8%
リンデ	米国	化学	4.7%
トップビルド	米国	家庭用耐久財	4.6%
イートン	米国	電気設備	4.5%
イベルドローラ	スペイン	電力	4.4%
ネクステラ・エナジー	米国	電力	4.0%

【期末】

銘柄名	国名	業種名	組入比率
ブロードコム	米国	半導体・半導体製造装置	6.2%
マーベル・テクノロジー	米国	半導体・半導体製造装置	4.4%
アブライドマテリアルズ	米国	半導体・半導体製造装置	4.3%
ネクストパワー	米国	電気設備	4.2%
リンデ	米国	化学	4.1%
トレイン・テクノロジーズ	米国	建設関連製品	4.1%
サンゴバン	フランス	建設関連製品	4.0%
イベルドローラ	スペイン	電力	3.8%
ファーストソーラー	米国	半導体・半導体製造装置	3.8%
NXPセミコンダクターズ	オランダ	半導体・半導体製造装置	3.6%



(注) 組入比率は、純資産総額に対する評価額の割合です。また、業種はGICS（世界産業分類基準）の産業に基づき表示しています。

期末の組入上位銘柄は、

- ブロードコム : 無線通信および通信インフラ向けの半導体や、エンタープライズ向けのインフラストラクチャーソフトウェアソリューションなどを設計、開発、提供する米国の企業。同社が大規模データセンター向けに提供する半導体は、データ処理の高速化と電力消費の削減に寄与するものであり、今後、長期的に需要が拡大することが見込まれる。自社の事業活動においては、2030年までに2021年比で温室効果ガス排出量（スコープ1およびスコープ2）を38%削減するとの中期目標を設定。
- マーベル・テクノロジー : セキュリティ、ネットワーキングプラットフォーム、ストレージソリューションなどに関する半導体と関連技術を提供する米国の企業。同社のストレージソリューションは、クラウドサービスの普及に伴ってニーズが拡大するデータセンターにおける電力消費の削減に寄与するものであり、今後、長期的に需要が拡大することが見込まれる。ソリューションの最適化のため、クラウドサービスを提供する顧客と直接協力して特定のエネルギ効率改善ニーズを満たすためのカスタムも行う。
- アブライドマテリアルズ : 半導体、太陽電池、フラットパネルの製造装置およびこれらに関連するサービスを提供する米国の企業。半導体は、e-モビリティへの移行や生産効率の向上を実現するための基盤技術であり、同社は半導体製造装置の提供を通じて社会のエネルギー転換に寄与。同社製品は、よりエネルギー効率の高い半導体の製造を支援するものであり、今後、長期的に需要が拡大することが見込まれる。
- ネクストパワー : 太陽光追従装置や発電量管理システム、センサー機能などを統合したソリューションを提供する米国の企業。電化の進展やAIの急速な普及を背景に、電力需要の拡大が見

込まれるなか、クリーンかつコスト効率に優れる太陽光発電の導入が進む公算が大きいと考えられる。こうしたなか、顧客の太陽光発電施設における発電効率の向上に寄与する同社ソリューションに対する需要は、今後、長期的に拡大すると見込まれる。自社の事業活動においては、ゼロ・エミッション輸送を採用するなどし、サプライチェーンの脱炭素化にも取り組んでいる。

- リンデ : 産業用ガスの世界的大手企業で、クリーン・エネルギー用途で注目が高まる水素分野におけるリーディングカンパニー。プラントエンジニアリング事業にも従事。同社の製品およびサービスは、顧客の温室効果ガス排出量削減にも寄与するものであり、脱炭素化の長期的トレンドに支えられ、今後、需要が拡大することが見込まれる。また、自社の事業活動においては、2035年までに2021年比で温室効果ガス排出量（スコープ1およびスコープ2）を35%削減するとの中期目標を設定。

などとなりました。

○今後の運用方針

（１）投資環境

当ファンドの投資対象である環境関連株式は、中長期的には欧州や日本、中国など多くの国・地域が脱炭素社会を目指す目標を掲げるなど、今後も環境問題への積極的な取り組みが行われると見られる中、引き続き魅力的な投資対象と考えます。ロシアのウクライナ侵攻を受けて、特に欧州でエネルギー安全保障への関心が高まっており、今後のエネルギー転換が加速することが見込まれています。分野別で見ると自動車の電化が急速に進む中でEV（電気自動車）関連が注目されます。またエコ・ロボティクス関連では、製造業においてコスト削減と競争力維持のためエネルギー効率化を進める動きが需要拡大につながると見られます。再生可能エネルギー関連については、太陽光や風力などによる発電コストの急速な低減が普及拡大をけん引すると考えます。

（２）投資方針

世界の環境関連企業の株式を主要投資対象とし、信託財産の成長を図ることを目的として積極的な運用を行うことを基本とします。特定の銘柄、国や通貨に集中せず分散投資を基本としリスク分散を図ります。外貨建資産については、原則として為替ヘッジを行いません。

○ 1 万口当たりの費用明細

(2024年11月27日～2025年11月26日)

項 目	当 期		項 目 の 概 要
	金 額	比 率	
(a) 売 買 委 託 手 数 料 (株 式)	円 28 (28)	% 0.042 (0.042)	(a) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 ・ 売買委託手数料は、有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(b) 有 価 証 券 取 引 税 (株 式)	13 (13)	0.020 (0.020)	(b) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 ・ 有価証券取引税は、有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(c) そ の 他 費 用 (保 管 費 用) (そ の 他)	20 (20) (0)	0.030 (0.030) (0.000)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 ・ 保管費用は、海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 ・ その他は、信託事務に要する諸費用
合 計	61	0.092	
期中の平均基準価額は、66,283円です。			

(注) 各金額は項目ごとに円未満は四捨五入してあります。

(注) 各項目の費用は、当ファンドが組入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。

(注) 各比率は1万口当たりのそれぞれの費用金額（円未満の端数を含む）を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数第3位未満は四捨五入してあります。

○売買及び取引の状況

(2024年11月27日～2025年11月26日)

株式

		買 付		売 付	
		株 数	金 額	株 数	金 額
外 国	アメリカ	百株 6,571	千米ドル 48,835	百株 10,090	千米ドル 113,515
	ブラジル	1,113 (58)	千ブラジルレアル 3,468 (81)	8,472 (28)	千ブラジルレアル 23,246 (3)
	イギリス	1,479	千英ポンド 2,622	486	千英ポンド 1,053
	ユーロ		千ユーロ		千ユーロ
	ドイツ	699	2,508	1,580	6,148
	フランス	627	5,521	236 (ー)	2,747 (12)
	オランダ	39	2,584	83	5,660
	スペイン	1,918 (12,622)	2,421 (658)	4,964 (12,372)	7,448 (294)
	スイス	ー	千スイスフラン ー	157 (ー)	5,017 (15)
	デンマーク	368	千デンマーククローネ 4,297	702	千デンマーククローネ 7,864

(注) 金額は受渡代金です。
(注) 単位未満は切り捨てています。
(注) ()内は株式分割、予約権行使、合併等による増減分で、上段の数字には含まれていません。

○株式売買比率

(2024年11月27日～2025年11月26日)

株式売買金額の平均組入株式時価総額に対する割合

項 目	当 期
(a) 期中の株式売買金額	33,146,481千円
(b) 期中の平均組入株式時価総額	33,509,005千円
(c) 売買高比率 (a) / (b)	0.98

(注) (b)は各月末現在の組入株式時価総額の平均です。
(注) 単位未満は切り捨てています。

○利害関係人との取引状況等

(2024年11月27日～2025年11月26日)

該当事項はございません。

利害関係人とは、投資信託及び投資法人に関する法律第11条第1項に規定される利害関係人です。

○特定資産の価格等の調査

(2024年11月27日～2025年11月26日)

該当事項はございません。

○組入資産の明細

(2025年11月26日現在)

外国株式

銘	柄	期首(前期末) 株 数	当 株 数	期 末 価 額		業 種 等
				評 価 外貨建金額	額 邦貨換算金額	
(アメリカ)		百株	百株	千米ドル	千円	
ALBEMARLE CORP		543	159	1,997	312,294	素材
BETA TECHNOLOGIES INC -CL A		—	154	399	62,547	資本財
MODINE MANUFACTURING CO		201	150	2,341	366,094	自動車・自動車部品
NEXTERA ENERGY INC		1,379	847	7,190	1,124,428	公益事業
TOPBUILD CORP		299	165	7,414	1,159,543	耐久消費財・アパレル
EATON CORP PLC		318	195	6,580	1,029,005	資本財
NVENT ELECTRIC PLC		—	641	6,729	1,052,306	資本財
TRANE TECHNOLOGIES PLC		405	216	9,066	1,417,837	資本財
ALLIANT ENERGY CORP		638	863	5,911	924,435	公益事業
ANALOG DEVICES INC		275	188	4,741	741,515	半導体・半導体製造装置
APPLIED MATERIALS INC		556	385	9,357	1,463,326	半導体・半導体製造装置
ARRAY TECHNOLOGIES INC		2,323	1,248	932	145,890	資本財
AUTODESK INC		283	103	3,061	478,708	ソフトウェア・サービス
BROADCOM INC		952	356	13,729	2,147,063	半導体・半導体製造装置
CADENCE DESIGN SYS INC		242	131	4,002	625,965	ソフトウェア・サービス
EVGO INC		856	980	296	46,325	一般消費財・サービス流通・小売り
FIRST SOLAR INC		—	316	8,245	1,289,365	半導体・半導体製造装置
LATTICE SEMICONDUCTOR CORP		1,183	1,072	7,286	1,139,529	半導体・半導体製造装置
MARVELL TECHNOLOGY INC		1,850	1,148	9,582	1,498,488	半導体・半導体製造装置
MONOLITHIC POWER SYSTEMS INC		27	51	4,679	731,755	半導体・半導体製造装置
NEXTPOWER INC -CL A		589	1,036	9,333	1,459,650	資本財
ON SEMICONDUCTOR CORPORATION		1,767	904	4,370	683,528	半導体・半導体製造装置
PTC INC		273	272	4,721	738,302	ソフトウェア・サービス
SHOALS TECHNOLOGIES GROUP -A		1,444	1,738	1,411	220,725	資本財
SYNOPSYS INC		77	52	2,101	328,652	ソフトウェア・サービス
TESLA INC		199	76	3,212	502,321	自動車・自動車部品
XCEL ENERGY INC		1,056	941	7,568	1,183,520	公益事業
LINDE PLC		274	222	9,086	1,420,881	素材
NXP SEMICONDUCTORS NV		540	419	8,016	1,253,566	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	18,562	15,043	163,368	25,547,575	
		26	29	—	<74.3%>	
(ブラジル)				千ブラジルリアル		
EQUATORIAL ENERGIA SA - ORD		8,770	5,003	19,587	568,193	公益事業
NEOENERGIA SA		3,562	—	—	—	公益事業
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	12,332	5,003	19,587	568,193	
		2	1	—	<1.7%>	
(イギリス)				千英ポンド		
SSE PLC		—	992	2,135	439,508	公益事業
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	—	992	2,135	439,508	
		—	1	—	<1.3%>	
(ユーロ…ドイツ)				千ユーロ		
RWE AG		2,068	1,219	5,293	957,067	公益事業
NEMETSCHEK SE		218	149	1,405	254,185	ソフトウェア・サービス
INFINEON TECHNOLOGIES AG		1,332	1,368	4,591	830,082	半導体・半導体製造装置
小 計	株 数 ・ 金 額 銘 柄 数 < 比 率 >	3,619	2,737	11,291	2,041,334	
		3	3	—	<5.9%>	
(ユーロ…フランス)						
SCHNEIDER ELECTRIC SE		114	74	1,666	301,203	資本財

銘		柄	期首(前期末)	当		期		業	種	等
			株	数	株	数	評			
					外貨建金額	邦貨換算金額				
(ユーロ…フランス) COMPAGNIE DE SAINT GOBAIN			百株 464	百株 895	千ユーロ 7,614	千円 1,376,650		資本財		
小	計	株数・金額 銘柄数<比率>	579	970	9,280	1,677,854				
			2	2	—	<4.9%>				
(ユーロ…オランダ) ASM INTERNATIONAL NV ASML HOLDING NV			61 74	41 50	1,953 4,351	353,218 786,689		半導体・半導体製造装置 半導体・半導体製造装置		
小	計	株数・金額 銘柄数<比率>	136	92	6,305	1,139,907				
			2	2	—	<3.3%>				
(ユーロ…スペイン) IBERDROLA SA EDP RENOVAVEIS SA			8,389 —	3,967 1,627	7,154 1,844	1,293,478 333,389		公益事業 公益事業		
小	計	株数・金額 銘柄数<比率>	8,389	5,594	8,998	1,626,868				
			1	2	—	<4.7%>				
ユ	ー	株数・金額	12,724	9,395	35,875	6,485,965				
		銘柄数<比率>	8	9	—	<18.9%>				
(スイス) SIKA AG-REG BELIMO HOLDING AG-REG			162 29	30 3	千スイスフラン 480 284	93,056 55,120		素材 資本財		
小	計	株数・金額 銘柄数<比率>	191	34	765	148,176				
			2	2	—	<0.4%>				
(デンマーク) VESTAS WIND SYSTEMS A/S			1,946	1,611	千デンマーククローネ 24,162	584,978		資本財		
小	計	株数・金額 銘柄数<比率>	1,946	1,611	24,162	584,978				
			1	1	—	<1.7%>				
合	計	株数・金額	45,757	32,080	—	33,774,397				
		銘柄数<比率>	39	43	—	<98.3%>				

(注) 邦貨換算金額は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。

(注) 邦貨換算金額欄の< >内は、純資産総額に対する各国別株式評価額の比率です。

(注) 株数・評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 一印は組入れがありません。

○投資信託財産の構成

(2025年11月26日現在)

項 目	当 期 末	比 率
	評 価 額	
株式	千円 33,774,397	% 98.2
コール・ローン等、その他	629,585	1.8
投資信託財産総額	34,403,982	100.0

(注) 評価額の単位未満は切り捨てています。

(注) 当期末における外貨建純資産（34,228,136千円）の投資信託財産総額（34,403,982千円）に対する比率は99.5%です。

(注) 外貨建資産は、当期末の時価をわが国の対顧客電信売買相場の仲値により邦貨換算したものです。なお、当期末における邦貨換算レートは、1米ドル=156.38円、1ブラジルレアル=29.0081円、1英ポンド=205.83円、1ユーロ=180.79円、1スイスフラン=193.54円、1デンマーククローネ=24.21円、100韓国ウォン=10.71円です。

○資産、負債、元本及び基準価額の状況（2025年11月26日現在）

○損益の状況（2024年11月27日～2025年11月26日）

項	目	当 期 末	項	目	当 期
		円			円
(A)	資産	34,403,982,796	(A)	配当等収益	426,762,780
	コール・ローン等	618,015,061		受取配当金	405,755,452
	株式(評価額)	33,774,397,391		受取利息	20,495,908
	未収配当金	11,568,658		その他収益金	511,420
	未収利息	1,686	(B)	有価証券売買損益	5,934,977,756
(B)	負債	30,160,000		売買益	8,877,964,854
	未払解約金	30,160,000		売買損	△ 2,942,987,098
(C)	純資産総額(A－B)	34,373,822,796	(C)	保管費用等	△ 10,250,228
	元本	4,247,838,724	(D)	当期損益金(A＋B＋C)	6,351,490,308
	次期繰越損益金	30,125,984,072	(E)	前期繰越損益金	34,679,487,390
(D)	受益権総口数	4,247,838,724口	(F)	追加信託差損益金	601,200,523
	1万口当たり基準価額(C／D)	80,921円	(G)	解約差損益金	△11,506,194,149
			(H)	計(D＋E＋F＋G)	30,125,984,072
				次期繰越損益金(H)	30,125,984,072

- <注記事項>
(貸借対照表関係)
(注) 期首元本額 6,128,101,598円
 期中追加設定元本額 112,452,477円
 期中一部解約元本額 1,992,715,351円
(注) 1口当たり純資産額 8.0921円
(注) 期末における元本の内訳
 ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド(年2回決算型) 為替ヘッジなし 2,556,980,917円
 ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド(毎月決算型) 為替ヘッジなし 374,294,941円
 iTrustエコイノベーション 293,038,139円
 ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド(年2回決算型) 為替ヘッジあり 914,666,339円
 ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド(毎月決算型) 為替ヘッジあり 108,686,231円
 ビクテ・エコディスカバリー・アロケーション・ファンド(適格機関投資家専用) 172,157円
- (注) 損益の状況の中で(B) 有価証券売買損益は期末の評価換えによるものを含みます。
(注) 損益の状況の中で(F) 追加信託差損益金とあるのは、信託の追加設定の際、追加設定をした価額から元本を差し引いた差額分をいいます。
(注) 損益の状況の中で(G) 解約差損益金とあるのは、中途解約の際、元本から解約価額を差し引いた差額分をいいます。

○お知らせ

投資信託及び投資法人に関する法律第14条の改正に対応するため運用報告書の記載箇所において所要の約款変更を行いました。